

<第4086回>

目的地：廃村八丁（京都北山）

担当者：山本勉

実施日：2020年11月14日（土）～15日（日）

形式：テント泊縦走

費用：¥3,060-（京阪淀屋橋発着、交通費のみ）

参加者：6名

川口貴史・富平一雄・南美幸・山内一史・脇門律子・山本勉

行程：

14日（天気：晴）

出町柳駅前BS(7:50)⇒(9:37)菅原BS(9:44)→登山口(10:10)→(11:03)ダンノ峠(11:10)→(11:38)P850(11:42)→(11:59)八丁山(P892)[昼食](12:23)→P847(12:46)→(13:35)ソトバ峠(13:40)→(14:02)ソトバ山(14:08)→(14:17)ソトバ峠(14:20)→廃村八丁(15:24)[16:30夕食 21:00就寝]

15日（天気：晴）[5:00起床・朝食]

廃村八丁(7:06)→(7:43)H800m稜線(7:48)→(8:00)トラゴシ峠(8:08)→P776(8:23)→P827への分岐(8:49)→(8:55)P827(9:02)→(9:07)P827への分岐(9:15)→品谷峠(9:29)→(10:00)品谷山(10:10)→(10:46)佐々里峠への分岐[昼食](11:10)→ダンノ峠(11:36)→桂谷出合(11:50)→(12:05)ダンノ峠(12:10)→(12:38)登山口(12:47)→(13:04)東禅寺(13:12)→(13:17)菅原BS(14:23)⇒出町柳駅前BS(16:28)[解散]

感想：

両日とも晴天に恵まれ、とても気持ちのいい山行になりました。菅原のバス停から林道をポチポチ歩いてダンノ峠への登り口へ。いきなりの急な尾根道は重たいテント装備を担いだ身には少し堪えました。ダンノ峠からガイドブックの道を外れて南へ向けて尾根を辿っていきます。一時間もかからず八丁山(P892)に到着。広くてなだらかな山頂で眺望もよく、ここで昼食にしました。東側には峰床山の向こうに武奈ヶ岳や蓬萊山が見えました。天気もよかったので打見山山頂の建物もはっきり見えました。

食後、ソトバ峠へ向かって出発。P847までは順調でしたが、ソトバ峠へと向かう尾根に移る道が見当たらず力技で突破しました。林道に出てホッと一息。ここからピストンに出発。昔のソトバ峠の特徴ある木の所からソトバ山を目指しましたが、林道に出るまでにひどい倒木地帯に遭遇しました。ここも再び力技で突破。皆さん、お疲れ様でした。せっかく行ったソトバ山ですが、眺望もなく、あまりパツとしませんでした。

ソトバ峠からババ谷を下り、廃村八丁へ。ここは小塩から入るメインルートですが、倒木が多かったです。廃村八丁に到着後、すぐに八幡宮にお参りしましたが、祠も完全に倒壊して無残な有様になっていました。次回来たときにはもう跡形もないかもしれません。テント場は土蔵跡の広場横の林の中に銘々テントを設営。夕食は焚き火を囲んでお酒を飲みながら楽しく過ごしました。

二日目、出発準備が整った頃にちょうど明るくなってきました。トラゴシ峠へは谷を詰めて登っていきます。トラゴシ峠では朝日に照らされたモミジなどがとてもきれいでした。ここから先もガイドブックには載っていませんが、尾根筋の道は広くてなだらかで歩きやすかったです。そして、ふっかふかに敷き詰められた落ち葉の絨毯の上を歩いて行くカサカサいう音を聞きながら歩くのはとても楽しかったです。ダンノ峠に到着後、バスの時間にはかなり余裕があったので、峠谷を桂谷の合流まで散策。きれいな紅葉にも出会って満足しました。菅原まで戻ってくるときれいな紅葉が目についたので、無人の東禅寺に立ち寄りしました。黄色と赤がとても見事でみんな一生懸命写真を撮っていました。菅原バス停にはバスの1時間前に着いたので、シートを広げてのんびりとバスの来るのを待ちました。

特記：

廃村八丁をぐるっと回るように歩きました。ガイドブックには載ってないコースですが、基本的には尾根を外さなければ特に問題ありません。しかしながら、この例会の時点で下記の3点は注意が必要。

1. P847からソトバ峠の間はソトバ峠から直線で350m程手前の西南西の尾根から南南西の尾根に山腹を下る箇所が不明瞭でわかりづらいです。（本来の場所を見落とすのかもしれませんが・・・）
2. 林道のソトバ峠から本当のソトバ峠を経てソトバ山に向かう場合、再び林道へ出るまで倒木がひどい箇所があるので、要注意。（林道からソトバ山へ行けばラクチン）
3. 廃村八丁からトラゴシ峠へは地形図の道ではなく北西の谷を詰めて、目印の虎テープのところから180度向きを変え、南に向かってトラバースして登って行きます。踏み跡が薄いので、要注意です。